

解剖学概論

科目責任者 徳田 信子

学年・学期 1 学年・3 学期

I. 前 文

本科目では、各器官系の基本的な構造を学びます。解剖学は医学分野の大切な基盤です。基盤が揺らいでいては、医師として必須の知識を積むことができません。解剖学用語を正しく理解し、日本語と英語で正確に書けるようになる必要があります。ディプロマ・ポリシー「医学知識1. 人体の構造と機能、種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い、他者に説明することができる。」「プロフェッショナリズム 1. 医師としての良識と倫理観を身に付け、患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。」を実践するため、十分な基礎固めをしてください。また、ディプロマ・ポリシー「リサーチ・マインド1. 最新の医学情報や医療技術に関心を持ち、専門的議論に参加することができる。2. 自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち、実践することができる。」を目指した講義も準備しています。

II. 担当教員

教 授 徳田 信子 解剖学

准 教 授 上田 祐司 解剖学

非常勤講師 大和田 祐二 福島国際研究教育機構 (F-REI)・執行役
東北大学 細胞生物学・器官解剖学・教授

III. 一般学習目標

各器官系について、肉眼的構造と主な機能を学び、次のステップへの揺るがない基盤とする。

IV. 学修の到達目標

- 1) 各器官系の位置関係、肉眼的構造と主な機能を理解し、説明できる。
- 2) 解剖学用語を日本語と英語で書ける。
- 3) 解剖学的な事項と臨床的な事項を関連づけることができる。

V. 授業計画及び方法 * () 内はアクティブラーニングの番号と種類

- (1: 反転授業の要素を含む授業 (知識習得の要素を教室外で済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態。))
2: ディスカッション, デイバート 3: グループワーク 4: 実習, フィールドワーク 5: プレゼンテーション
6: その他)

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担 当 者	アクティブラーニング
1	10	6	月	2	イントロダクション・解剖学用語	徳田 信子	1
2		20	月	2	循環器系1 (心臓)・免疫系 (胸腺)	徳田 信子	1
3		20	月	3	循環器系2 (心臓)	徳田 信子	1
4		23	木	3	循環器系3	徳田 信子	1
5		31	金	4	呼吸器系	徳田 信子	1

回数	月	日	曜日	時限	講義テーマ	担当者	アクティブ ラーニング
6	11	4	火	2	消化器系 1	徳田 信子	1
7		4	火	3	消化器系 2	徳田 信子	1
8		18	火	3	内分泌系	徳田 信子	1
9		26	水	4	泌尿器系・男性の生殖器系 1	上田 祐司	1
10		26	水	5	泌尿器系・男性の生殖器系 2, 脾臓	上田 祐司	1
11		27	木	4	特講:	大和田 祐二	1
12		27	木	5	特講:	大和田 祐二	1
13	12	1	月	3	女性の生殖器系 1	徳田 信子	1
14		5	金	2	女性の生殖器系 2	徳田 信子	1
15		8	月	3	献体について	徳田 信子	1

Ⅵ. 評価基準（成績評価の方法・基準）

定期試験（97%）、ミニテストや提出物など（3%）により、総合的に評価する。

なお、定期試験問題内の英語問題は「医学英語Ⅰ」の評価として集計される。

Ⅶ. 教科書・参考図書・AV資料

様々な書籍が出版されています。

書店などで実際に手に取り、ご自分に合ったものを選択してください。

下記に例示します。

- 1) 教科書：グレイ解剖学，エルゼビア
- 2) 教科書：プロメテウス解剖学 解剖学総論／運動器系，医学書院
- 3) 図譜：プロメテウス解剖学 コア アトラス，医学書院
- 4) 図譜：ネッター解剖学アトラス，南江堂

Ⅷ. 質問への対応方法

問い合わせ先：解剖学講座図書集会室（133室）

IX. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能、種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い、他者に説明することができる。	◎
	種々の疾患の診断や治療、予防について原理や特徴を含めて理解し、他者に説明することができる。	○
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け、正しく実践することができる。	
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け、患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け、患者やその家族、あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	○
	書籍や種々の資料、情報通信技術（ICT）などの利用法を理解し、自らの学修に活用することができる。	○
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち、専門的議論に参加することができる。	○
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち、実践することができる。	○
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し、自らの行動に反映させることができる。	
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け、自らの行動に反映させることができる。	
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。	
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。	

X. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題について、間違いや誤解が多い点を随時解説します。

XI. 求められる事前学習、事後学習およびそれに必要な時間

予習すべき内容をe-learningや動画などの形式で示すので、必ず取り組んでください。講義当日にこの内容に関するテストを行い、結果は総合成績に反映させます。また、予習用に示されたe-learningや動画については、講義後の復習用にも用いてください。予習・復習教材と、講義で配布されたハンドアウトをもとに、要点を説明できるようにしておくことが大切です。

XII. コアカリ記号・番号

シラバス別冊に記載。